

技術・家庭科（家庭分野） 学習指導案

横浜国立大学教育学部附属横浜中学校 大野 あすか

1 対象・日時 1年B組 令和8年1月24日(土) 1校時

2 本題材で育成したい資質・能力（評価規準）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて理解しているとともに、適切にできる。	①日常着の手入れの仕方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	①よりよい衣生活の実現に向けて、衣服の手入れについて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

3 題材「快適な衣生活を送るための手入れ方法」について

本題材は、『学習指導要領』「B 衣食住の生活」の(4)「衣服の選択と手入れ」のア(イ)とイについて学習する内容となっている。

衣生活は日常生活を送る上で欠かせないものであり、快適な衣生活を送ることは手入れが必要であり、手入れを適切に行うことで衣服を長持ちさせることにつながる。しかし、多くの中学生が日常的に着用する衣服の手入れは家族任せとなっており、小学校で学習した手洗いによる洗濯方法や手縫いの方法などは、中学生の生活の中で自ら取り組むことが少ない様子が伺える。また、洗濯機の使い方もスイッチを入れればよいという考えが多く、手入れが必要な衣服に対して、自らの力で適切な手入れの方法を選択出来ているかは疑問がある。そこで、自分や家族の生活を振り返り、手入れに対する自らの課題を見いだし、日常的に着用している衣服の手入れ（洗濯・補修）方法を検討し、家庭での実践を通して活用させたいと考えた。第1時では自分や家族の生活を振り返り、衣服の手入れに対する問題点に気付かせたい。そこから、日常的に着用している衣服の着用後の状態を考えさせ、これまでの学習内容を踏まえながら適切な手入れの方法を考えさせたい。また、手入れの中から比較的短時間で実践が可能なワイシャツのアイロンがけは家庭で実践を行うこととした。学校での実践も技能を高めることにつながるが、家庭で実践を行うことは、家族からのアドバイスや工夫が得られるだけでなく、今後の生活の中で継続的な実践につなげるねらいがある。実践により得た気付きは、グループで共有し、今後の実践に生かせるようにしていく。第3時から第4時にはスカートやスラックスのすその補修に使われることが多い方法の一つとして、まつり縫いの技能の獲得をねらいとした実習を行う。動画から手順や注意点を見つけ、練習布で実践したものと相互にアドバイスしあい、まつり縫いの理解と技能を高めていく。第5時以降はここまで学習を生かし、生徒が自分や家族の衣服の手入れ方法を検討し、家庭での実践に向けて計画を立て、グループでの意見交流を通して改善していく。実践後は振り返りを行い、評価・改善しながら、今後の生活での継続的な実践につながるようにしたい。

4 生徒の学びの履歴

小学校の家庭科では、手洗いによる洗濯、基本的な手縫いやミシン等の用具の扱い方を学習している。また、前期では衣服を選択する方法を学習する中で取り扱い表示、組成表示、素材の特徴による違いの知識を得た。

家庭分野の学習では、自ら課題について考えた後にアドバイスを交換し、それを基に自らの考えを再構築することを大切にしている。また、他の題材においても、自らの考えの変容や授業を通して気付いた視点を記録できるワークシートを用いている。これまでの学習を基に、3年生の最後には生徒自身や家族にとっての「よりよい生活の実現」を構想できるようにするために、今回の題材においても「よりよい生活の実現」につながるように学習の意識を高めていきたい。

5 資質・能力育成のプロセス（8時間扱い、本時 □ は6時間目）

次	時	評価規準 (丸番号は、2の評価規準の番号)	【】内は評価方法 及び Cと判断する状況への手立て
1	1 2	思① 自分や家族の生活を振り返り、衣服の手入れの方法に問題を見いだして自らの課題を設定している。 (○) 知① 衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れの方法について理解している。 (○)	【ワークシートの記述の確認】 C：自分の生活を振り返らせ、これから自らが取り組む視点を基に課題を設定するように促す。 【発言の確認】 【行動の観察】 C：自分の課題の解決に向けて、どのような力が必要になるかを考えさせる。 【ワークシートの記述の確認】 C：日常着の手入れの仕方について、取り扱い表示や材料の状態について家庭での実践と結びつけ、適切な方法に気付けるように促す。
	3 4	思① 日常着の手入れの仕方について実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現している。 (○) 知① 衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れが適切にできる。 (○)	【発言の確認】 【ワークシートの記述の確認】 C：他者の実践を聞き、様々な方法や改善点について考え、生活に活かせるよう意見を整理し、伝えるように促す。 C：日常着の手入れについて材料や状態に応じた手入れの仕方に気付けるよう促す。
2	5 7	思① 自分や家族の生活を振り返り、衣服の手入れ方法に問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想している。 (○) 知① 衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて理解しているとともに、適切にできる。 (○)	【ワークシートの記述の確認】 【発言の確認】 【行動の観察】 C：自分や家族の日常着の手入れの仕方について、衣服の材料や状態に応じた方法に気付けるよう促す。 【ワークシートの記述の確認】 C：日常着に使われる材料の違いや状態の違いを考えさせ、適した方法について気付けるように促す。
	8	態① よりよい生活の実現に向けて、衣服の手入れ方法を見つめ、これからの生活を工夫し、実践しようとしている。(○○) 思① 衣服の手入れについての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを論理的に説明したり、発表したりしている。(○○)	【ワークシートの記述の確認・分析】 C：これまで積み重ねてきた学習を振り返り、自分の生活で大切にしたい視点がないか、考えさせる。 C：今までの学習を踏まえ、自らの考えを具体的に記入するように促す。

主たる学習活動	指導上の留意点	時
<ul style="list-style-type: none"> ・学習プランを用いて、本題材の見通しをもつ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【貫く課題】 快適な衣生活を送るための手入れの方法とは</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・学習前の考えをワークシートに記入する。 ・着用後の制服や体育着などの日常着に必要な手入れの方法について検討する。 ・衣服の手入れに必要な知識や技能を整理し、まつり縫いなど新たな知識や技能の必要性に気付かせる。 ・ワイシャツのアイロンがけの家庭実践に必要なポイントを検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習プランを示しながら、学習の流れと身に付けてほしい資質・能力を確認し、見通しをもたせる。 ・これまでの生活を振り返り、衣生活の手入れについて学習前の考えを整理し、記入するよう促す。 ・着用後の衣服の状態を考えさせ、洗濯方法や補修方法等、どのような方法が用いられているか考えるよう促す。 ・衣服の違いによる手入れ方法の違いに気付き、新たな知識や技能を身に付ける必要があることに気付かせる。 ・ワイシャツの形状を含め、アイロンがけに必要な注意点等を事前に考えさせる。 	1 2
<ul style="list-style-type: none"> ・アイロンがけの家庭実践から気づいた点、工夫した点などグループで意見交換をする。 ・日常着の新たな補修方法（まつり縫い）の必要性について考え、動画から縫い方のポイントを見つける。 ・まつり縫いの練習を行い、グループで出来上がりについてアドバイスをし合い、繰り返し練習する。 ・次時にむけ、自分や家族の衣服の手入れの課題を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アイロンがけの家庭実践から気が付いた点等、グループで意見交換を行い今後の実践に活かせることに気付かせる。 ・日常着の補修方法（まつり縫い）の必要性について理解し、縫い方の注意点など気づかせる。 ・まつり縫いの仕上がりについて、やり方や注意点等をアドバイスしあうように促す。 ・自分や家族の衣服の手入れ方法について、材料や衣服の状態に合わせて考えさせる。 	3 4
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【課題】 衣服の状態に適した手入れの方法を検討し実践する。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・自分や家族の衣服の手入れ（洗濯・補修）の方法について、実践方法を検討し、グループでお互いの方法について意見交換を行う。 ・考えた実践方法について、様々な意見から内容を再検討し、実践に向けて計画を見直す。 ・家庭で実践した内容をグループ内で情報交換し、実践内容の改善点等を見つけ、今後の生活に活かせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分や家族の衣服の状態や素材などから適した手入れ（洗濯・補修）の方法を見つけ、実践に向けて手順等を考え、それぞれの計画について意見を交換するよう促す。 ・家族や仲間の意見をもとに実践方法の改善点などを再検討し、計画を見直すよう促す。 ・グループで意見交換を行い、実践を振り返り、改善点等に気付き、今後の生活に活かせる新たな気づき等、情報を整理するよう促す。 	5 7
<ul style="list-style-type: none"> ・「快適な衣生活を送るための手入れの方法」について自らの考えをまとめ、グループで意見交換を行う。 ・生活の営みに係る見方・考え方を働かせて考える視点を活用し、自らの課題や貫く課題の解決に向けた学習後の考えをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の営みに係る見方・考え方を働かせて考える視点を活用し、学習後の考えをまとめさせる。 	8

6 学びの実現に向けた授業デザイン

【「学びに向かう力」が高まっている生徒の姿】

これまでの学習内容を活用しながら、日常着の手入れの方法について他者の意見も取り入れ、自らの生活に必要な方法を見いだしていく姿。また、補修方法に用いられる縫い方等について、材料の性質や状態に応じた方法を選択することができ、自らの生活に必要な技能を身に付け実践しようとする姿。

【「学びに向かう力」を高めていくための指導と評価の工夫】

○観点別学習状況のあり方

1. 「知識・技能」の指導と評価

本題材では、「快適な衣生活を送るための手入れの方法」として、生徒が自らの生活を振り返り、課題を設定し解決することを目標にしている。日常着の手入れの方法とは、日々の手入れだけでなく、長期的な衣服の保管に必要な手入れの方法や衣服を修繕する方法も「手入れ」とされている。既習内容である手洗いによる方法や簡単な手縫いの知識や技能を生かしながら、中学校の学習内容の洗濯機を用いた洗濯やまつり縫いへと学習内容をさらに発展させ深めていく。自分や家族の生活と結び付け、本題材の学習内容が実生活で活用できることに気付かせていく。また、知識だけでなく技能を高めるために実践を行い、グループで相互に具体的なアドバイスを行う。そのためには手入れ方法に関する知識や技能が定着していることが重要である。これらはワークシートの記述や実践レポート等から評価する。

2. 「思考・判断・表現」の指導と評価

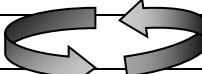
自分や家族の生活を振り返ることで、手入れに関する自らの課題を見いだし、「快適な衣生活を送るための手入れの方法」を考えていく。自らの課題の解決に向けて、仲間と考えを共有したり、実践に向けて計画を考えたりする学習を通して、衣服の手入れという家庭の仕事を自分事として捉え、家族の一員として担えることに気付かせていく。実践活動に向けて、自らの手入れの課題を見つける段階からグループで共有し、様々な考え方や視点に触れるようにする。課題の解決に向けて、実践内容を報告し合い、これまでの学習で得た知識等を生かしながら相互にアドバイスを送り、振り返りから改善点を見付けていく。実践活動の振り返りから、今後の実生活にどのように生かし、取り組んでいくのか、他者との意見交換等を通じてブラッシュアップした記述を評価していく。

3. 「主体的に学習に取り組む態度」の指導と評価

家庭分野の生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、「快適な衣生活を送るための手入れの方法」の学習を進める上で大切だと思う気づきを、ワークシートに毎時間記入していく。また、学習後の姿を個々の課題と共に記入するようにした。生徒が考えた学習後の姿は実生活に生かすための目標として捉えさせ、その目標に近づこうとすることが家庭分野を学ぶ意義となるのではと考えた。実践活動は、TPCを用いて振り返りと改善点を記録させ、学習を調整する姿を残すように工夫した。題材のまとめでは、4つの視点の中のどの視点に重点を置いて考えているのか、自らの課題解決に重視した視点に色ペンで印をつけ、課題の解決への糸口となった視点を意識しながら記述させていく。「手入れ」について学習内容を実生活で活用し、自分や家族の「よりよい生活」につなげようとしている姿を取組の様子やワークシートへの記述と合わせて総括的に評価していく。

【本題材での指導事項】 ※（既習）は既習事項

- ・衣服の取り扱い表示や組成表示、素材の種類について（既習）
- ・基本的な手縫いの技能（なみ縫い、返し縫い、本返し縫い、2つ穴ボタン付け）（既習）
- ・洗濯機を用いた洗濯方法、洗剤の選び方、まつり縫い等による補修方法



【本題材の学習と「学習の基盤となる資質・能力」とのつながり】

- ・「快適な衣生活を送るための手入れの方法」を自ら見いだすため、グループ等における話し合いを通じて**言語能力**を高める。また、他者の意見と比較しながら、自分の考えを整理し、適切に伝える力を育成する。
- ・生活に必要な技能を身に付けるため、動画や見本から必要なポイントなどを整理したり、アドバイスをしたりして、それらを実践や生活にどのように生かしていくのかについて考えを整理する中で**情報活用能力**を育成する。
- ・学習内容を実生活にどのように活用していくのか、自らの生活を振り返り、解決に向けて学習を進めていくことで、**問題発見・解決能力**を育成する。